

美唄市議会産業・厚生常任委員会道内都市行政調査報告書

調査地 秩父別町
名寄市

令和 6 年 7 月 3 日から 7 月 4 日までの 2 日間にわたり道内都市行政調査を行ったので、その概要を別紙のとおり報告します。

令和 6 年 10 月 23 日

美唄市議会議長 谷 村 知 重 様

美唄市議会産業・厚生委員会

委 員 長 齋 藤 久美夫

副委員長 川 上 美 樹

委 員 永 森 峰 生

〃 江 川 いつみ

〃 本 郷 幸 治

〃 楠 徹 也

〃 松 山 教 宗

事 務 局 永 岡 佑

産業・厚生常任委員会行政視察報告

日 時:令和6年 7月 3日 13:30～15:00

場 所:秩父別町ファミリースポーツセンター

調査の目的

全国レベルで少子高齢化が進む中で、本市でもこれらに対する各種施策を行っておりますが、その中でも子育て支援の一環として、一年を通じて子供たちが安全に遊べる屋内遊戯施設や公園整備に取り組んでいるところであります。そこで秩父別町には、町内外から大変人気のある屋内遊戯施設「こども屋内遊戯場 キッズスクエアちっくる」を平成29年に、屋外遊戯施設では「屋外遊戯施設 キュービックコネクション」を平成30年にオープンさせており、子育てに優しい街の先進地として市議会においても同町を視察し、知見を深めることで今後の子育て支援の施策のあり方について、行政側に対する適切な提言や議論を行うことを目的に本研修を実施しました。

調査のまとめ

子育て支援の一環として、通年を通じて子供の遊び場の提供として秩父別町の屋内外の遊戯施設を視察し、これらの施設の有用性を強く感じた。

秩父別町におけるこれらの施設の設置の発端(目的)は、豪雪地帯での子供の冬の遊び場の確保、町の知名度の向上、交流人口の増加、町のシンボルとしての施設、そして近隣にこのような施設がなかったという、当時の町長のアイデア(発想)から始まったプロジェクトであったもので、屋内施設は約5億7,000万円、屋外施設は約4億円の建設費をもって設置し、その利用者は1,000人～8,000人／月ある。また、これら施設の運営については指定管理者に1,700万円／年をもって管理させている。更にその効果としては、町外利用者も多く交流人口も増加し、札幌や旭川からも施設の利用に訪れているようである。

これら視察の結果から本市としても、市民からの子供たちの遊び場の確保の要望があること、

そしてこれらの施設を通じて、地域の活性化という観点からも議会として議論していかなければならないと感じるものであります。

何となれば、市民の子育て支援(子供の遊び場確保)、そしてこれに付随して街の知名度の向上による交流人口の増加、ひいては経済効果も向上し更には定住・移住へと繋がり、地域の活性化への可能性は大である。

また、これらの建設における財源については、秩父別町では当時における国や道からの適用される補助金等は無かった時であったため、全てを町の一般財源と過疎債をもって当てたが、近年については、自治体の施策に対する国や道の助成・補助金等は各種に及んでおり、事前にしっかりした調整・検討は必須事項である。

更にこれらは大型施設のため、その維持・管理に関わる年間運営費用については相応の費用が掛かっているが、市民に生活のゆとり、楽しさ、面白さなどを感じてもらうには有効な施設であり、市内はもとより市外の人達をも含めた交流の場、憩いの場となりうるもので、それに伴う経済的効果(循環)に繋げ得るものであることを感じた。

その他施設の運営上の安全面、収益性、そして広報など、検討すべきことは多岐にわたるが、総じて、子供の遊びの場を通じた教育を含めての子供支援、交流・関係人口の増加による定住・移住、そしてそれらによる経済効果等を鑑みるに、まちづくり、ひとづくり、という点からもその有用性・有効性は非常に高いものであることを感じた。しかし一方では、施設の設置の環境整備やその財源確保については、しっかりと議論を進めていかなければならないという事も認識した。

産業・厚生常任委員会行政視察報告

日 時:令和6年 7月 4日 10:30～11:30

場 所:名寄市役所

調査の目的

本市では、車中心の生活から車がなくても生活できる環境づくり、年齢に関係なく気軽に利用できる新しい公共交通システムを構築するため、地域公共交通活性化・再生総合事業(AI オンデマンドバス短期実証調査)に取り組んでいるところであり、今年度は10月から12月末までの3ヶ月間その実証調査を実施し、その調査結果に基づき実用化を目指しておりますが、市議会としてもこの AI オンデマンドバスを推進するに当たり、先進自治体である名寄市を視察し、市民のニーズや市の現状に沿うような公共交通網となるよう、今後の適切な提言や議論を行うことを目的に実施しました。

調査のまとめ

名寄市は、人口約25,000人と本市の約10年前の規模の自治体ではありますが、近年のバス事業所のバス運転手不足から市内運行の定期路線の便数削減が余儀なくされ、その公共交通の不足を補う上で AI デマンドバスの導入が図られました。

そのため、これまであったバス会社のバス停45ヶ所を含め、AI デマンド導入後はこのバス停を含め100余ヶ所で AI デマンドバスに乗車が可能となり、より身近でバスに乗れるようになっている。また、乗車予約はアプリや電話で受付し、その乗車時間・場所、目的地などの予約に基づきバスの運行を効率的に設定するシステムは、システム会社が担当し、実際のバスの運行は地元のタクシー会社に業務委託して運行している。更にその利用者は、車を持たない又は車の運転免許を返納した高齢者から、放課後の部活や塾へ通うために学童・学生も活用しているものでありました。

しかしながら名寄市は、今後についてもいくつかの改善点を抱えているのも事実であり、それ

らを改善していくことでより効率化と利便性を向上し、市民のための公共交通機関として運用できるものと、この視察を通じて有用性を強く感じた。

本市においても大手民間バス事業者の撤退後は、市がこれを担当して現在2路線を確保しつつ、各路線ごとに市内のバス事業者にその業務を委託しているのが現状である。

また高齢化社会が進む中で、高齢者の運転免許返納の気運の高まりから、本市においても市民バス路線における公共交通機関としての地域のカバー率も低下する中で、この AI オンデマンドバスを取り入れることにより、公共交通機関としての運営、維持、管理の効率化を図り、市民に寄り添った公共交通機関の必要性を強く感じた。

現在本市は、この AI オンデマンドバスの実証調査を10月から12月の3ヶ月間実施し、その調査結果を基に実用化を目指しているところでありますので、この調査結果と今回の視察の内容を参考にしつつ議会として議論を深めていき、本市の現状と市民のニーズと相まった公共交通機関となるよう、行政に対し適切に提言できるよう議論していきたいと考えます。

産業・厚生委員会 委員長 齋藤久美夫



●秩父別町議会大野議長より挨拶



●委員長挨拶



●説明中の様子



●屋内遊戯施設「ちっくる」の視察の様子



●視察後、「ちっくる」にて



●視察後、「キュービックコネクション」にて



●名寄市議会山田議長より挨拶



●委員長挨拶



●説明中の様子



●副委員長挨拶



●視察後、市役所にて